

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承頂きます。

【研究課題名】 大腿部悪性軟部腫瘍切除による筋損傷と運動障害の研究

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦 2002 年 1 月から西暦 2019 年 8 月の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院整形外科
- 3) 対象疾患名：悪性軟部腫瘍と診断された方

【診療情報等の項目】

病歴、診断名、年齢、性別、組織型、手術記事、予後、術後機能評価、QOL 評価、観察期間

【研究目的】

悪性軟部腫瘍は筋肉、神経、皮下などに発生する比較的まれな悪性腫瘍であり、小児から高齢者まで幅広い年齢層に発生することが知られています。治療では切除が基本であり、その際は再発を防止するため安全な切除縁を設定し広範切除を行うことが求められます。特に筋、筋膜発生例もしくは筋肉浸潤例では筋肉の合併切除は必須であり、術後患肢筋力低下をしばしば認めます。しかし筋切除範囲と運動障害の詳細な検討は十分に行なわれてはいません。特に下肢筋肉合併切除例においては、歩行能力をはじめ日常生活、就業への影響など疑われます。今回切除による運動障害の可能性が高いと推察される大腿部発生悪性軟部腫瘍術後の運動障害について、当院での切除後の筋力測定、ADL 測定が詳細に検討された症例の解析を行い、今後のリハビリ訓練方法の工夫と運動能力の改善につなげたいと思います。

【研究（利用）期間】 久留米大学倫理委員会承認後から西暦 2021 年 12 月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する情報の管理責任者）：

久留米大学医学部整形外科学講座 准教授 平岡 弘二

問い合わせ担当者：

久留米大学医学部整形外科学講座 准教授 平岡 弘二

電話: 0942-31-7568

E-mail: khiraoka@med.kurume-u.ac.jp